

# 新人看護教員が職務転換時に直面した困難と必要とする支援

著者	木下 恵美
発行年	2015-03-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/10193">http://hdl.handle.net/10422/10193</a>

氏 名	木下 恵美
学位の種類	修 士（看護学）
学位記番号	修 士 第 1 8 3 号
学位授与年月日	平成27年3月10日
学位論文題目	新人看護教員が職務転換時に直面した困難と必要とする支援

## 論文 内 容 要 旨

※整理番号	188	(ふりがな) 氏 名	きのした めぐみ 木 下 恵 美
修士論文題目	新人看護教員が職務転換時に直面した困難と必要とする支援		
<p>研究の目的</p> <p>臨床看護師から看護教員に職務転換した際に直面した困難と具体的な支援方法を明らかにする。</p> <p>方法</p> <p>質的帰納的研究</p> <p>半構成的面接により、新人看護教員 6 名から得られた逐語録をデータとして分析した。</p> <p>結果</p> <p>分析の結果、9 のカテゴリー、44 のサブカテゴリーを抽出した。以下、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを《 》で表す。</p> <p>《向学心に燃えて教職を選択》、《看護師として伸び悩み異動》などにより【ステップアップの一つとして教職を選択】、《イメージできない教職に従事することに不安》、《要領がわからないまま教職に従事》などから【漠然としかつかめない教職に苦労】、《学生の能力を高める授業方法に悩み》、《意図的な授業設計の難しさを実感》などにより【教育スキルがないことに苦悩】、《身に付けたスキルが発揮できないことに動揺》などから【看護師のキャリアが生かせないことに苛立ち】、《教員イメージのギャップの大きさに落胆》などにより【達成感が得られていない教育活動に緊張】、《学校特有の業務に慣れない自分に直面》などから【教育するという試練に我慢】、《学生を大事に思う気持ちを自覚》などにより【学生に触発されて教育に奮起】、《先輩の教育場面に盗視》などから【教育方法を獲得する手立てを模索】、《節度がない社会人学生への関わり方を模索》などにより【社会人学生の多さに驚き】を抽出した。</p> <p>考察</p> <p>【ステップアップの一つとして教職を】は、職種の変更を伴う異動にも関わらず、教育職について理解がないままステップアップの一つとして教職を選択していることが、より困難さを強めていた。また、職務転換時に直面した困難には、教育活動に関わるものとして、【漠然としかつかめない教職に苦労】し、【教育スキルがないことに苦悩】と【看護師のキャリアが生かせないことに苛立ち】が浮き彫りにされ、教員として役割遂行できないことに苦悩していた。さらに、【達成感が得られない教育活動に緊張】し、【教育するという試練に我慢】を強いられ、【社会人学生の多さに驚き】を感じつつも【学生に触発されて教育に奮起】して【教育方法を獲得する手立てを模索】していることが明らかになった。看護職から教育職へと変更する場合は、事前の準備を行い職種の変更に伴うリスクを軽減し、困難を緩和する必要がある。そして、新人看護教員として役割遂行するにあたっては、新人であることを自覚し、教職に就いてもすぐに達成感が得られないことや、ある程度の試練があり、我慢が必要な時期を乗り越えることも必要である。そのことを新人看護教員が理解できるように支援するとともに、新人看護教員の自己研鑽を促しつつ先輩教員の教育活動を見て学べるシステムを組織で作ることが必要である。また、社会人学生の対応は、社会人学生の背景や特性について説明し、社会人学生への指導方法について支援することが必要である。</p> <p>総括</p> <p>新人看護教員が職務転換時に直面する困難は様々であるが、職務転換時に伴うリスを認識できるようにすること、看護教育や教職に対する理解ができるようにすること、教育活動が行えるための準備や指導を段階を追って行っていくこと支援する必要がある。</p>			